

知って安心
クリーンエネルギー

LPガス 業務用周知文書

LPガス安全管理マニュアル
LPガスを業務用でお使いになるお客さまへ



LPガス
人と地球にスマイルを
10月10日はLPガスの日

職場の皆さままで回覧してください。

このパンフレットは液化石油ガス法にもとづき、職場にお届けするものです。

●店名

—安心ライフのお手伝い—

●住所



青木プロパン株式会社
尾道市向島町2038-1

●電話

TEL : 0848-44-0011 FAX : 0848-44-5898

E-mail : info@aoki-lpg.co.jp

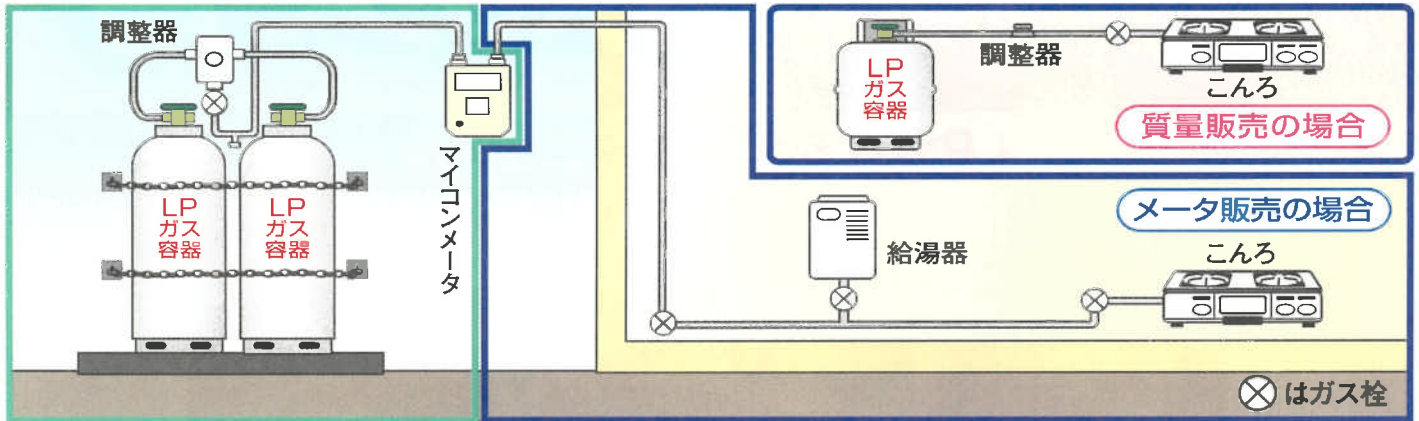
URL : <http://www.aoki-lpg.co.jp>

●緊急時
の連絡先

一般社団法人 広島県LPガス協会

日頃の安全点検は、ご自身で行ってください。

- ◆ 日頃使用されている機器（ガスメータの出口からガス機器まで。メータのない場合は容器からガス機器まで）は、お客さまの責任で安全にご使用ください。
- ◆ その他の設備については、容器交換のつどLPガス販売店または販売店から依頼を受けた保安機関が点検を行います。また原則4年に1回以上、お客さまのすべての設備について、点検・調査をさせていただきます。※点検・調査の結果、指摘があった設備については、法律上、改善の必要があります。



LPガス販売店が行う安全管理

供給設備

お客さまが行う安全管理

消費設備

供給設備とは

容器からマイコンメータまでは、**供給設備**と呼ばれ、この部分はLPガス販売店が責任をもって安全管理します。

消費設備とは

マイコンメータの出口からガス機器まで（メータのない場合は容器からガス機器まで）は**消費設備**と呼ばれ、法律上の管理責任はお客さまにあります。

配管の腐食・損傷に注意

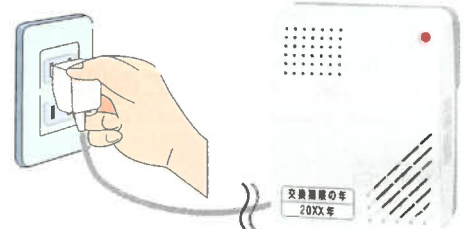
配管が腐食・損傷していると、ガスが漏えいして大事故につながる危険性があります。またガス漏れがなくても腐食が進んでいる場合があります。LPガス販売店に相談して速やかに対策を講じてください。



ガス警報器のご使用にあたって

- ◆ 警報器が適正な位置に設置されているかを確認しましょう。
- ◆ 警報器の電源プラグは常時コンセントに差し込んでおきましょう。
- ◆ 警報器の周りに物を置かないようにしましょう。
- ◆ 警報器が交換期限内のものかを確認しましょう。
- ◆ 警報器がガスメーターと連動していれば、気づかなくても自動でガス漏れを検知してガスを止めることができるので事故防止の効果が高まります。

※共同住宅、学校、病院などの人が多く集まる施設、地下室等に燃焼機器が設置されている場合には、原則として法律によりガス警報器（LPガス用）の設置が義務付けられています。



小型容器の取扱いについて

- 容器が倒れないよう、平らな場所に置いてください。
- 直射日光や火気を避けてご使用ください。
- 使用後は、必ず容器バルブを閉めてください。
- 容器は、火の気のない風通しの良い所に保管してください。
- 不要になった容器は、必ずLPガス販売店に返却してください。



LPガスを正しく使って、いつも安心。

- いつもLPガスを安全・快適にお使いいただくために、LPガスおよびガス機器などについて正しいご理解をいただくことが大切です。
- ガス機器の性能、正しい使用方法、お手入れの方法、保管方法などは取扱説明書や警告表示などをご確認の上、正しくご使用ください。

燃焼確認の注意点

- ガスをお使いのときは、炎は必ず「青い炎」でお使い下さい。赤っぽい炎は、不完全燃焼をしている炎です。



不完全燃焼（酸素不足）



完全燃焼

ガス機器のお手入れ

ガスこんろなどの目づまりは、不完全燃焼の原因となります。ときどき器具ブラシなどで掃除をしてください。

ガス機器（こんろなど）のお手入れなどで、ネジなどを取りはずす必要がある場合は、ご自身でお手入れせずに、必ずLPガス販売店へご連絡ください。

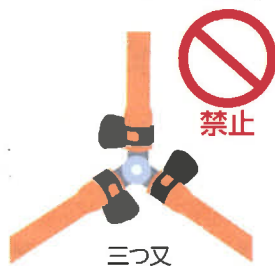
料理時の注意点

- 点火・消火は必ず目で確かめてください。
- ガス機器の近くに、燃えやすいものは置かないでください。
- マッチ等にて点火する場合には、マッチ等を先に点火してから器具栓を開いてください。
- 風や煮こぼれで火が消えたり、天ぷらを揚げているときに、鍋の中の油に火が着くことがあります。ガスを使っているときは、その場を離れないようにしてください。
- ガスを使っている時は、着衣への着火にご注意ください。



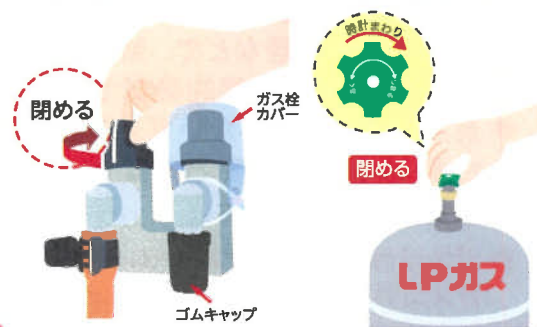
ガス機器接続の注意点

- ガス栓に適合するLPガス用ゴム管または専用ホースを使用してください。
- ガスもれ防止のため、湯沸器や風呂がまなどの固定式の燃焼機器とガス栓の接続にゴム管を使用することは禁止されています。
- ゴム管は、過度に長いものを使用しないでください。
- ゴム管は、ガス栓の赤い線のところまで差し込んで、ホースバンドでしっかりとめてください。
- ゴム管は、物かげを通したり、折り曲げたりしないでください。
- 三つ又は危険なので、絶対に使用しないでください。
- ゴム管はときどき点検し、ひび割れや焼け焦げなどの発生しているゴム管は使用しないでください。ゴム管からのガス漏れの点検は、石けん水を塗り泡が出るかで分かります。（泡が出た場合は、すぐに新しいゴム管に取替えてください。）点検後はきれいに拭き取ってください。



ガス栓の注意点

- ガスをお使いになるときは、ガス栓を全開にしてお使いください。また、お使いにならない場合は、完全に閉めてください。
- 長期間ご不在になるときは、容器バルブを閉め、LPガス販売店にご連絡ください。
- 就寝前及び留守になるときは、器具栓及び元栓が閉まっていることを確認してください。
- 配管やガス栓をアースの代わりに使用しないでください。
- ガス機器（こんろなど）に接続されていないガス栓は、絶対に開けないでください。（ガス栓カバーやゴムキャップの装着が有効です）



レストラン・食堂、ラーメン店、学校など幅広い業種・施設等で事故が多発しています。

CO中毒事故の内容

主な原因

- 給排気口に物を置くなどしてふさぐ
- 換気扇を使用せずに調理する

漏えい事故の内容

主な原因

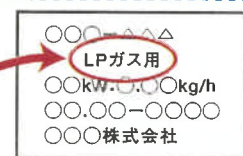
- 点火ミス(点火操作繰返し、未着火)
- ガス栓・器具栓の誤開放
- 器具劣化



ガス機器をご使用の際は ご確認ください。

- LPガスには、必ずLPガス用ガス機器をご使用ください。
都市ガス用ガス機器は使用できません。
- ガス機器は、取扱説明書をよく読んでから、正しくご使用ください。

新しくガス機器をご使用の際は、LPガス専用の機器であることを確認してください。



製造会社の銘板例

※LPガス用ガス機器には上のような表示があります。



ガス機器を使用する際には 必ず換気(給気と排気)をしましょう。

※業務用厨房施設において、CO(一酸化炭素)中毒事故が頻発しています。

- CO(一酸化炭素)は無色・無臭の気体であり吸い込んでしまうと、軽症の場合は頭痛・めまい・麻痺等の中毒症状となり、高濃度のものを吸い込んでしまうと、最悪の場合は死に至ることもあります。
- 業務用厨房ガス機器によるCO(一酸化炭素)中毒事故のほとんどが換気設備を適切に使用していない(スイッチの入れ忘れ等)ことが原因となっています。
- 業務用厨房ガス機器は、プロ向けであるため、ガス消費量・使用頻度が多いことや機器の劣化により、高濃度のCO(一酸化炭素)が発生する可能性が高くなっています。
- 業務用換気警報器の設置をおすすめします。
- 経営者の方はもちろん、業務用厨房ガス機器を使用されるすべての方(アルバイト等を含む。)は、以下の点について、徹底していただくようお願いします。

○ガス機器を使用する際には、必ず窓を開けるか換気設備を稼働させてください。(冷暖房中も忘れずに。)

○ガス機器の火がつきにくい、異臭がする等の際には、至急LPガス販売店の点検を受けてください。

○ガス機器の給排気口や排気装置の吸い込み口は油やほこりがたまりやすいため、定期的に清掃してください。

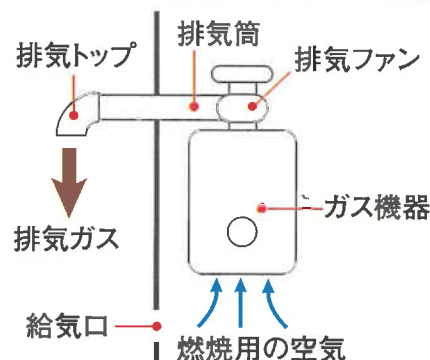
○業務用換気警報器の設置、CO(一酸化炭素)濃度の測定、排気ダクト等の換気状況、機器の排気部のスス、つまりなどについても、LPガス販売店にご相談ください。

※点火時やご使用中に火が消える場合は、安全装置が作動している可能性がありますので、再点火は行わないで直ちに使用を中止し、ガス機器の購入先やLPガス販売店または保安機関(緊急時の連絡先)にご連絡ください。(連絡先は表紙に記載)



半密閉式燃焼機器をご使用の方に

- 半密閉式燃焼機器をご使用の方は必ず排気筒(煙突)と給気口(空気取り入れ口)を設置してください。(右図参照)
- 給気口はふさがないでください。
- 排気筒(煙突)の中に鳥が巣を作り、排気を妨げる場合があります。そうした心配のある場合には、LPガス販売店に点検を依頼してください。
※排気筒(煙突)には、鳥の侵入を防ぐ防鳥網付きのタイプもあります。



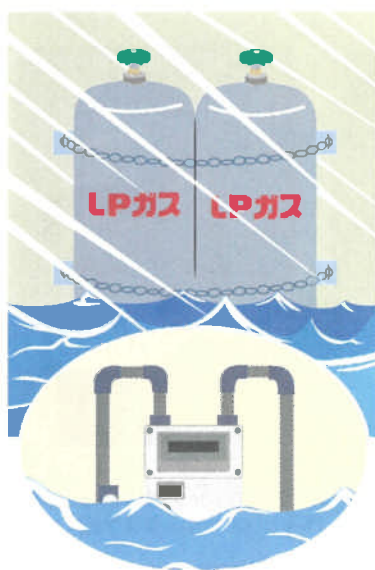
ご要望により、CO点検を実施いたします。不完全燃焼防止機能が付いていないガス機器又は老朽化したガス機器は、早めに交換してください。

災害時の対策は… 自分の身を守りましょう



地震のときは

揺れがおさまってから、ガス栓・器具栓を閉め(火をすべて消し)、揺れが大きかった時は、屋外の容器バルブも閉めてください。

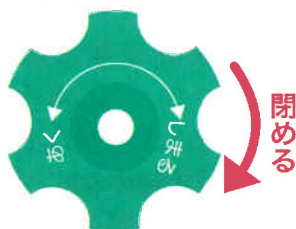


台風・洪水に備えて

※容器にぐらつき等の不安がある場合は販売業者に連絡をしてください。

容器やLPガス設備が浸水した場合や容器が転倒などした場合はLPガス販売店または保安機関にお知らせください。

容器バルブ



容器バルブの閉め方

避難するときはガス栓を閉め、容器バルブを閉めましょう。容器バルブを閉めるときは、時計と同じ右に回すと閉まります。

※再びガスをお使いになる際は、必ずLPガス販売店または保安機関の点検を受けてからお使いください。

CO(一酸化炭素) 中毒事故防止に 有効なガス機器 をおすすめします。



不完全燃焼 防止装置付き 小型湯沸器

不完全燃焼が発生した場合、ガスを自動的に止めます。



屋外設置式の 給湯器

屋外の空気を使って燃焼し、排ガスも屋外に排出するため、不完全燃焼対策に有効です。また、省エネ性能にも優れています。



業務用 換気警報器

不完全燃焼などで発生したCO(一酸化炭素)が人体に重大な影響を及ぼす前に警報を発します。

**不完全燃焼防止機能が
付いていないガス機器
又は老朽化したガス機器は、
早めに交換してください。**



特に雪の多い 地方の対策

●雪おろし

雪おろしの際は、ガス設備に損傷を与えないように十分注意してください。

●雪囲いや容器収納庫の設置

雪により容器が埋まったり、屋根からの落雪や雪おろし等で調整器や配管、メータなどがこわれるおそれがあるため、雪囲いや容器収納庫を設置してください。また、雪囲いや容器収納庫の周りは除雪してください。

●排気筒(煙突)の補強

排気筒(煙突)は丈夫な支柱で補強してください。

LPガスの性質

① 空気よりも重い

LPガスは空気よりも重いため、もしガスがもれたら、特に下の方の風通しを良くしてガスを屋外に追い出しましょう。

② ニオイをつけてある

LPガスそのものは無色無臭ですが、もれたときに分かるようにガス特有の臭い(異臭)をつけてあります。

③ 燃焼には空気が必要

LPガスが燃焼するためには空気(酸素)が必要です。室内でガスを使用するときは、十分に換気をしてください。換気が不十分な場合は、不完全燃焼を起こしCO(一酸化炭素)が発生します。十分注意してください。

もしも ガスがもれたら!!

「ガスのニオイに気づいたら」
「ガス警報器が鳴ったら」

ガスもれ時の対応

- 室内の火は全部消してください。またマッチをすったり、タバコなども吸わないでください。
- コンセントの差込やスイッチには触れないでください。着火の原因となります。(換気扇は絶対に回さないでください。また回っている換気扇はそのままにして、手を触れないでください。)
- ガス栓・器具栓・容器バルブを閉めてください。
- 扉や窓を十分に開け、風通しを良くしてLPガスを追い出してください。



LPガス保安連絡担当者の選任 使用最大流量3m³/h以上のメータが取り付けられていて、従業員が10名以上のところでは、「LPガス保安連絡担当者」を選任してください。

担当者の役割

- LPガス販売店と連絡を取り合う窓口となります。
- ガスの使用上の注意事項や正しい使用方法を従業員にお知らせします。
- 始業時・終業時にガスメータやガス栓・器具栓のチェックをします。



「もしも」のために
お願いします。

- ◆誘導担当者を決め、非常口などの避難経路を決めておく。
- ◆お客さまにガスもれを知らせて、風上の安全な場所へ避難誘導する。

<LPガス販売店または保安機関(緊急時の連絡先)に連絡してください。>

- 連絡の際は氏名・住所・状況などをお知らせください。
 - LPガス販売店または保安機関の点検を受けるまでガスを使わないでください。
- ※万が一、LPガスによる災害が発生した場合にも連絡してください。

連絡先は
表紙に記載



こんなときはLPガス販売店にご連絡ください。

(連絡先は表紙に記載)

- ガス設備の工事や新しくガス機器を取り付けるとき、または取りはずすとき。
- 新築・改装・転居などで、新しくLPガスを使うとき、またはやめるとき。
- ストーブなどの季節的機器で、取り付け・取りはずしが困難なとき。
- 長期間使用していないガス機器を使用するとき。
- 台風・洪水等の災害で容器やLPガス設備が浸水したとき。
- 容器が転倒したとき。
- ガス以外の工事(リフォーム、住宅塗装工事、水道工事など)によるガス管損傷の事故が起きています。ガス以外の工事を行うときには必ずLPガス販売店にご連絡ください。

※配管、風呂がま、湯沸器、煙突などにかかる工事を行うときは、法律上の資格が必要です。

※風呂がまや湯沸器の中には給気口や排気設備が必要な機種があります。